

沖縄県立鏡が丘養護学校

教諭 金城 智也

6

特別支援学校 生活単元学習

Ⅰ はじめに

平成 20 年 3 月、沖縄県立総合教育センターは『沖縄県キャリア教育推進事例研究』を公表した。その中で、特別支援学校におけるキャリア教育のねらいとして「児童生徒が社会生活に関わりながら、個々の障害の特性や実態に応じた、自己実現が図られるように一人一人の発達段階を把握し、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路選択ができる能力や態度を育てる」ことを提言している。特別支援学校に通う生徒の進路先は、進学・一般就労・福祉就労・日中活動（デイサービス・通園事業・ショートステイ等）の大きく 4 つに分類することができる。児童生徒の障害の重度・重複化や多様化が進んでいることが報告されている今、学校における進路指導の充実が求められている。

沖縄県立鏡が丘養護学校は、肢体不自由に特化した特別支援学校であるが、在校生の多くが知的障害を伴っている。障害の程度も様々で、生徒によって実態もそれぞれ異なる。そのため、個の実態に応じ、さらに本人の希望する進路先を見つけることは、本校の生徒にとって重要な課題である。本校での進路学習は、主に生活単元学習（週 2 時間）や HR 活動（週 1 時間）時に行われており、特に就業体験学習に向けての事前学習やその後の事後学習に多くの時間を割いている。その中で、どんな仕事をしてみたいか生徒が選ぶ際、進路学習ノートで調べるか、先生方から話を聞くことでしか情報を入手できないという現状がある。そのため生徒は、実際の仕事内容や作業の様子を具体的にイメージすることができず、自分の希望する進路先を主体的に決めることが困難な状況もみられる。

そこで、県内の作業所等の情報をデジタル化し、職場や作業所等の様子を動画・静止画を交えて視覚的に把握できるような進路学習支援教材を開発したい。そうすることで、生徒自ら簡単に進路情報を入手でき、「働く」ことが具体的にイメージできるようになり、主体的な進路学習・進路決定へとつながるであろう。

知的障害を伴った肢体不自由の生徒でも、ICT を使った進路学習支援を行うことによって主体的に進路学習に取り組み、進路について自己選択・自己決定できる能力を養えると考えている。ひいては、生徒が積極的に社会参加し、自立する態度を養うことを目的に、コンテンツの開発を行う。

II 教材の開発

■ 福祉施設検索システム ■

1 教材の概要

本教材は、主に特別支援学校における「進路指導」において活用することができる。特に、三者面談等において、保護者や生徒に対して施設の概要を説明する際に利用することができる。また、教員に対して、障害者自立支援法や福祉施設についての研修においても活用できると考える。

2 教材の特徴

- (1) 社会福祉施設に関する情報を、コンピュータを使って簡単に検索できる。
- (2) 地図を用いることで、生活する場から近い施設を生徒や保護者に紹介することができる。
- (3) 動画（30 秒～1 分程度）や静止画を利用して、仕事内容を視覚的に紹介することができる。
- (4) 各学校の実態に即して、施設の追加等、システムのカスタマイズが容易にできる。
- (5) 「障害者自立支援法」に基づき施設を分類しているので、障害者自立支援法下における施設の分類法を理解することができる。

3 教材の内容

今回開発する教材は、平成 18 年 4 月から施行された障害者自立支援法をもとに構成する。新法下におけるサービスは、個々の障害の程度に基づいて支給決定が行われる「障害福祉サービス」と市町村により運営される「地域生活支援事業」の大きく二つに分類される。

「障害者福祉サービス」はサービス内容により、介護等に関する「訪問・通所系サービス」、昼間の活動を支援する「日中活動」、夜間の生活を支援する「居住支援」の大きく 3 つに分類される。そこからさらに、「居宅介護」から「共同生活援助」までのサービスについて扱うこととする。

「地域生活支援事業」については、旧作業所にあたる「地域生活支援センター」が中心となっている。さらに、学校現場や保護者からのニーズが高かった「移動支援」、「日中一時支援」、「相談支援事業」についても項目を設け、市町村役場と連絡が取れるようにした。

障害者自立支援法に基づかず、旧法（身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・児童福祉法）のまま運営が続けられている施設に関しては、利用頻度の高い「授産施設」、「更生施設」、「療護施設」について扱うこととした（図 1・表 1）。

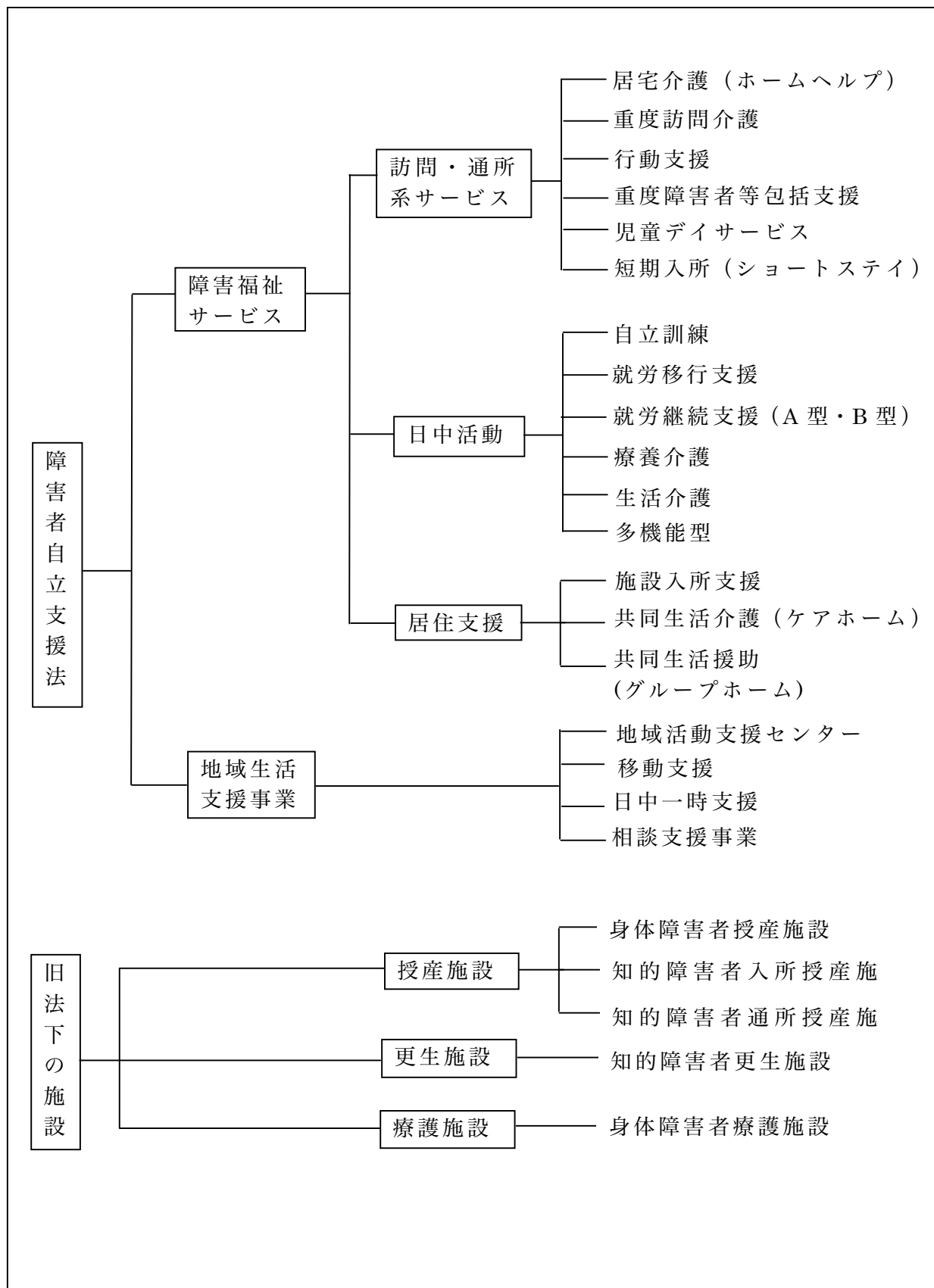


図1 障害者自立支援法と旧法に基づく施設の分類

表 1 取材を行った施設一覧

①就労移行支援

那・浦	就労支援センターさわやか
宮古	くこりもや

②就労継続支援（A型）

北部	沖縄障害者福祉工場
	住マイル福祉工場

③就労継続支援（B型）

中部	就労継続支援eライン
	就労継続支援くわの実
	就労継続支援ぎずな
那・浦	PCNET-NABA
	就労継続支援ふれんど
南部	ワークサポートひかり
	障害者就労支援施設Aile
	ワークステーション夢工房
	支援センターびゅあ
石垣	就労継続支援事業所いこいの家

④多機能型施設

北部	福祉サービス事業所のびる
	在宅支援センターカラーズ
	障害福祉サービスかけはし
	就労支援センタードリーム
	せせらぎの里
中部	自立プラザ 希織
	太陽就労自立訓練センター
	総合支援センターたかしほ
	コミュニティーいしかわ
	障害福祉サービスはごろも
	セルフサポートびゅあ
	ウェルよみたん
	支援施設チャレンジ
	デイサービスセンター美原
那・浦	就労支援あ・ん
	ふれあいセンター
	就労支援事務所まる
	社会就労センターわかたけ
	社会就労センターらんとた
	社会就労センターたけのこ
	就労サポートミラソル
	沖縄コロニー印刷
	希望の大地
	アトリエ種子
	デイセンターなずな
	生活介護支援事業所いじゅ
南部	リハビリセンター仁愛
	ソフィア
	晴風苑
	沖縄中央育成園
	社会就労センターたまん
	デイサービスおおさと
石垣	ゆいまーるいしがき

⑦地域活動支援センター

北部	かたばる共同作業所
中部	地活センターあいとびあ
	地活センターあやはし
	地活センターきむたか
	地活センターゆい
	地活センターふれあい
	地活センターていんがーら
	地活センターあざみ
	地活センターむつみ
	ひまわり共同作業所
	NPO法人くらしき
	あけぼの福祉作業所
	授産施設はばたき
	共同作業所イルカ
	福祉作業所おきなわ工房
	地活センターていーだ
	地活センターみつ葉
	地活センターたんばぼ
那・浦	そなえ会
	あゆみ福祉作業所
	地活センターてだこ
	地活センターなは
	地活センターふれんど
	障害者支援センターふくぎ
	地活センター首里
	地活センターゆいまーる
	特定非営利活動法人ナカヤ
	地活センター一粒の麦
	地活センターあごら
	地活センターはんたびあ
	地活センターまーじ
	小規模福祉作業所みらい
南部	はんどinはんど
	かすりくらぶ
	地活センターあすなろ
	大里福祉作業所
	佐敷福祉作業所
	野の花共同作業所
	かすみ草
	すずな作業所
	知念福祉作業所
	小規模作業所のぞみの里
	玉城福祉作業所
	地活センター野の花
	福祉作業所なごみの家
	ゆたか作業所
	たんばぼ福祉作業所
宮古	NPO法人やすらぎ
	小規模作業所なんくる
	地活センター若葉
	地活センターあだん
石垣	むりぶし共同作業所
	共同作業所ハピル

⑤身体障害者授産施設

中部	ニライの里
那・浦	沖縄コロニー
	コロニーステーション
南部	おきなわ希望の家
	おきなわ太陽の町
宮古	青潮園
石垣	大浜工房

⑥知的障害者更生施設

北部	名護学院
中部	石水の里
	石川学院
	栄野比学園
	緑の里
	ゆいの郷
	高志保園
	グリーンホーム
	愛泉園
那・浦	北嶺学園
南部	みなみの里
	よもぎ学園
	てだこ学園
	あけもどろ学園
	鶴生の叢
	玉川園
宮古	あけぼの学園
	ふれあいの里
石垣	おもと学園

⑧知的障害者入所授産施設

北部	えすの里
	本部海陽園
中部	れいめいの里
	栄野比の里
	安住の郷
那・浦	那覇学園
南部	つきしろ学園

⑨知的障害者通所授産施設

北部	いしなぐ授産所
	今帰仁おとば学園
	ゆいとびあ工房
中部	楓葉館
	ありんこ
	蒼生学園
	蒼生分場美ら風
南部	授産施設とみぐすく
	愛の園
	南風学園
那・浦	授産施設そてつ
	那覇学園
宮古	みやこ学園
	アダナス
石垣	八重山育成園

4 教材のスタイル

最初にタイトル画面からメニュー画面へと進み,そこから障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」,「地域生活支援事業」と「旧法による施設」のいずれかを選択する。次に地図による選択画面から施設を検索し,施設情報を得ることができる(図2)。

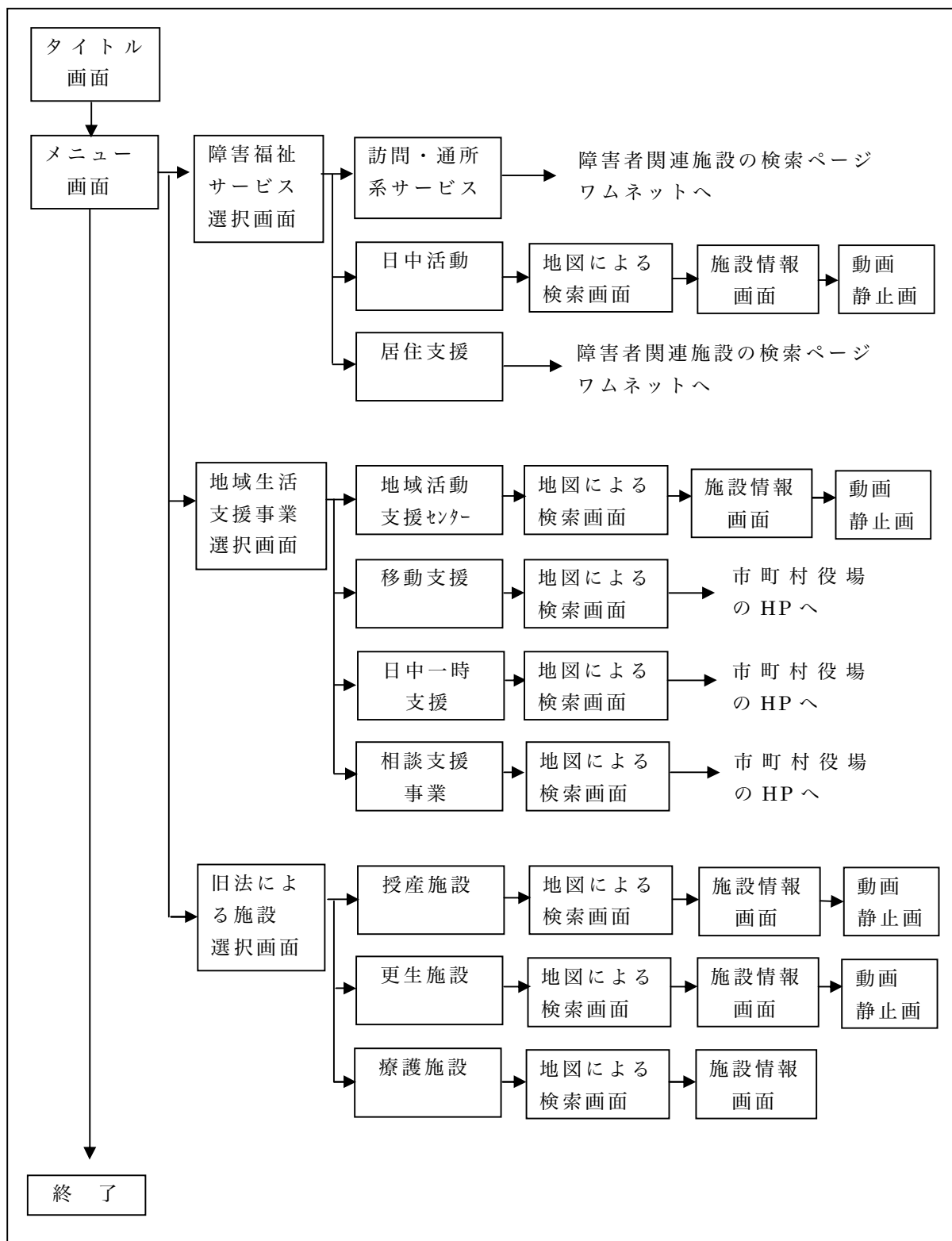


図2 福祉施設検索システムにおける全体構成図

5 画面構成

(1) タイトル画面

タイトル画面（図 3）をクリックすると、「メニュー選択画面」へと移行する（図 4）。また、そこからどの画面へ進んでも、「トップ」ボタンをクリックすることで、「メニュー選択画面」に戻るよう設定した。



図 3 タイトル画面

(2) メニュー選択画面

障害者自立支援法に基づく施設の分類では、「障害福祉サービス」と「地域生活支援事業」の 2 つに分類されているため、それに則して、リンクボタンを 2 つ設定した。

また、障害者自立支援法に基づく新体制に移行していない施設に関しては、「旧法のままの施設はこちらから」という別のボタンから施設を検索できるように設定した（図 4）。

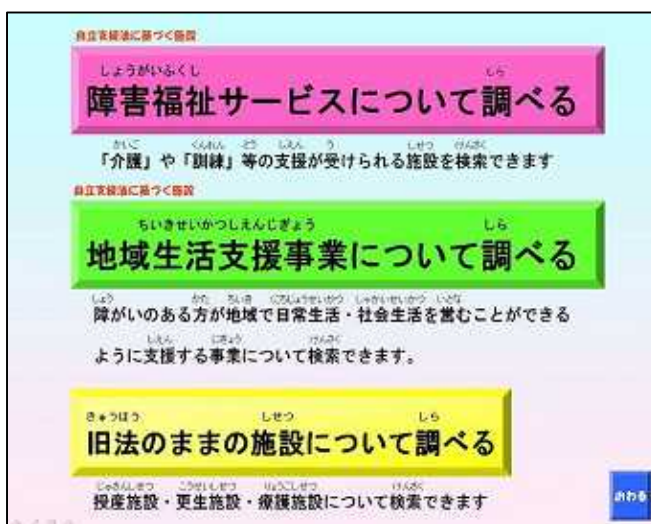


図 4 メニュー選択画面

(3) 「障害福祉サービス」選択画面

「障害福祉サービス」は、「訪問・通所系サービス」、「日中活動」、「居住支援」の 3 つに分類できる（図 5）。このうち、「訪問・通所系サービス」と「居住支援」については、独立行政法人『福祉医療機構』の運営する「ワムネット（<http://www.wam.go.jp/>）」という検索ページにリンクすることで、施設の検索を可能にした。

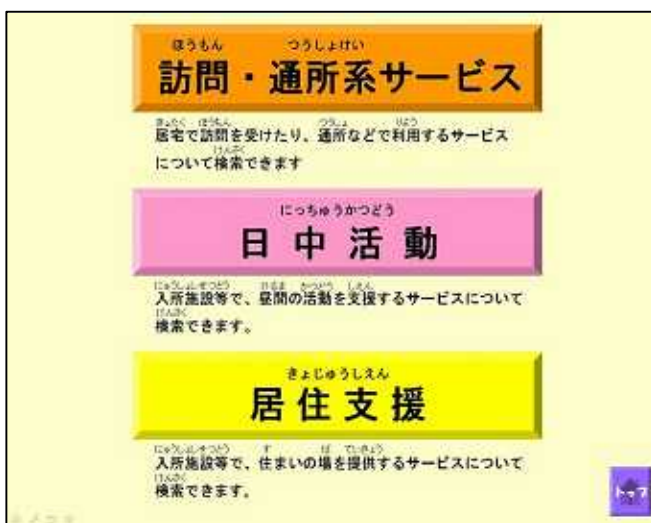


図 5 障害福祉サービスについての画面

(4) 「ワムネット」における施設検索

「ワムネット」では、最初に都道府県名・市町村名を入力し、次に「訪問・通所系サービス」か「居住支援」を選択する（図6）。さらに、その中から自分の調べたい項目を選択することで、簡単に施設情報得ることができる。

図6 ワムネットにおけるの地域選択画面

(5) 「日中活動」における選択画面

「日中活動」は、「自立訓練」、「就労移行支援」、「就労継続支援」、「生活介護」、「療養介護」の5つに分類される。これら5つのサービスの内、複数のサービスを提供する施設に関しては、「多機能型施設」という別色のボタンを設け、検索しやすいよう工夫した（図7）。

図7 日中活動における選択画面

(6) 施設選択画面

図7から進むと地図が表示され、最初に地域を選択する。地域毎に施設名が表示されており、施設名をクリックすることで、施設の情報を得ることができる（図8）。



図8 施設選択画面

(7) 施設情報画面

施設情報画面からは、所在地、電話番号、サービス内容、作業内容などの情報を得ることができる。また、「HP」ボタンをクリックすると、施設の運営する Web サイトにアクセスすることができる。さらに、所在地の隣りにある地図のマークをクリックすると、Google Map へとつながり、施設の詳しい場所を知ることができる(図 9)。

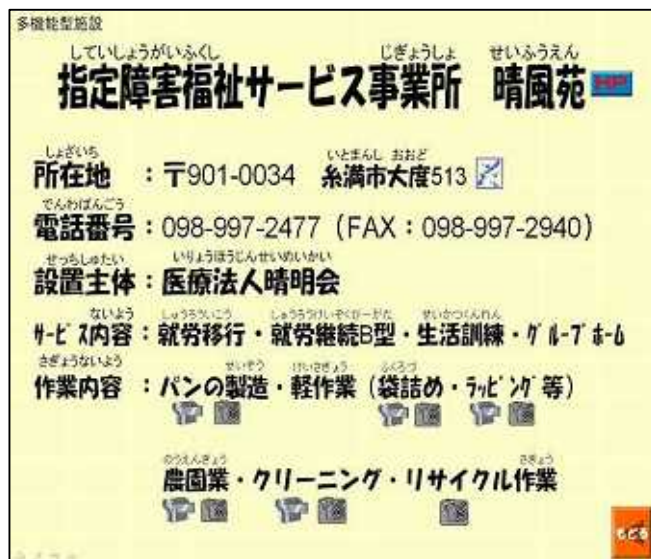


図 9 施設情報画面

(8) 動画画面

施設情報画面の作業名の下には、「ビデオカメラ」や「デジタルカメラ」のマークがあり、それらをクリックすることで、それぞれ動画と静止画を観ることができる。作業内容が複雑な場合には、動画の左隣りに「作業の流れ」を提示することで、生徒が仕事内容を理解しやすくなるよう工夫した(図 10)。



図 10 動画画面

(9) 静止画面

静止画の画面にも、簡単な説明文が添えられており、作業内容が理解できるようになっている。また、施設情報画面に戻ることなく、静止画の画面から直接動画の画面にリンクするよう、画面下には動画のマークを設置した(図 11)。反対に、動画の画面から直接静止画の画面にもリンクされている。



図 11 静止画面

(10) 「地域生活支援事業」選択画面

「地域生活支援事業」については、「地域活動支援センター」、「移動支援」、「相談支援事業」、「日中一時支援」の4つに分類した。それぞれボタンをクリックすることで、各サービスについての検索が可能である（図12）。



図12 地域生活支援事業における選択画面

(11) 施設選択画面

「地域活動支援センター」についても、「日中活動」同様、地図上から地域、施設を選択することで、施設情報を得ることができるようになっている。ここでは、「日中活動」との違いが一目で分かるよう、背景の色をピンクに統一することとした（図13）。



図13 地域活動支援センターにおける選択画面

(12) 「移動支援」における説明画面

「移動支援」、「相談支援事業」、「日中一時支援」については、図を用いてサービスを受けるまでの流れが一目で分かるよう工夫した。各市町村によって、サービスの内容が異なるため、「市町村役場」の部分をクリックすると、地図の画面へリンクすることができるようにした（図14）。

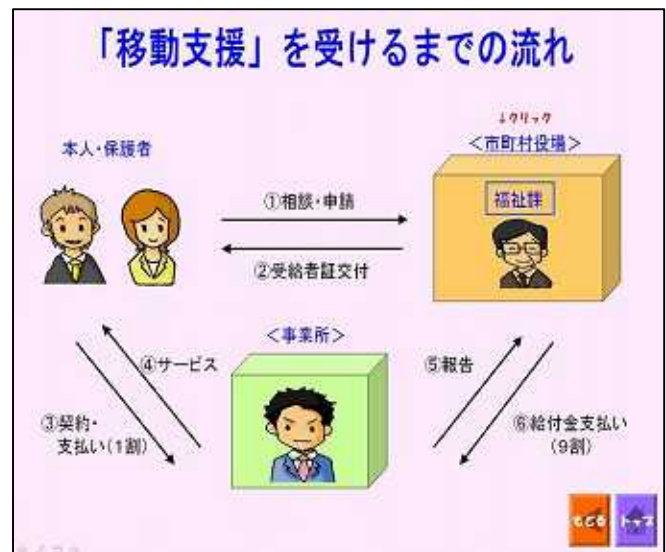


図14 移動支援におけるサービスの流れ

- (13)「移動支援」における地域選択画面
地図の画面から地域を選択し、さらに調べたい市町村を選択することで、各市町村役場の情報を得ることができる（図 15）。



図 15 移動支援における地域選択画面

- (14) 役所の情報画面
役所の情報画面からは、所在地、電話番号、福祉課電話番号、ホームページアドレスを調べることができる。利用者自ら連絡を取ることで、各サービスについて相談し、情報を得ることができる（図 16）。



図 16 役所の情報画面

- (15)「旧法」における選択画面
旧法のまま運営が続けられている施設については、「授産施設」、「知的障害者更生施設」、「身体障害者療護施設」の情報が得られるようにした（図 17）。「日中活動」同様、地図上から地域、施設を選択し、施設情報を得ることができる。



図 17 旧法における選択画面

■ 就労支援ソフト「いっぽいっぽ」 ■

1 教材の概要

本教材は、主に特別支援学校における「進路学習」において活用することができる。特に、就業体験の事前学習や卒業後の進路を決定する際の利用が望ましい。

2 教材の特徴

- (1) 社会福祉施設に関する情報を、コンピュータを使って簡単に検索できる。
- (2) 地図を用いることで、生活する場から近い施設を簡単に見つけることができる。
- (3) 動画や静止画を見ることで、仕事内容を視覚的に理解することができる。
- (4) 各学校の実態に即して、施設の追加等、システムのカスタマイズが容易にできる。
- (5) 作業内容から施設を検索することも可能である。

3 教材の内容とスタイル

この教材では、生徒自ら簡単に情報が得られるよう、「障害者自立支援法」による細かい分類は避けた。「地図から調べる」では、すぐに地図にアプローチでき、簡単に情報を得ることができる。また、「作業内容から調べる」項目を設け、作業内容から施設を探すことも可能にした（図 18）。

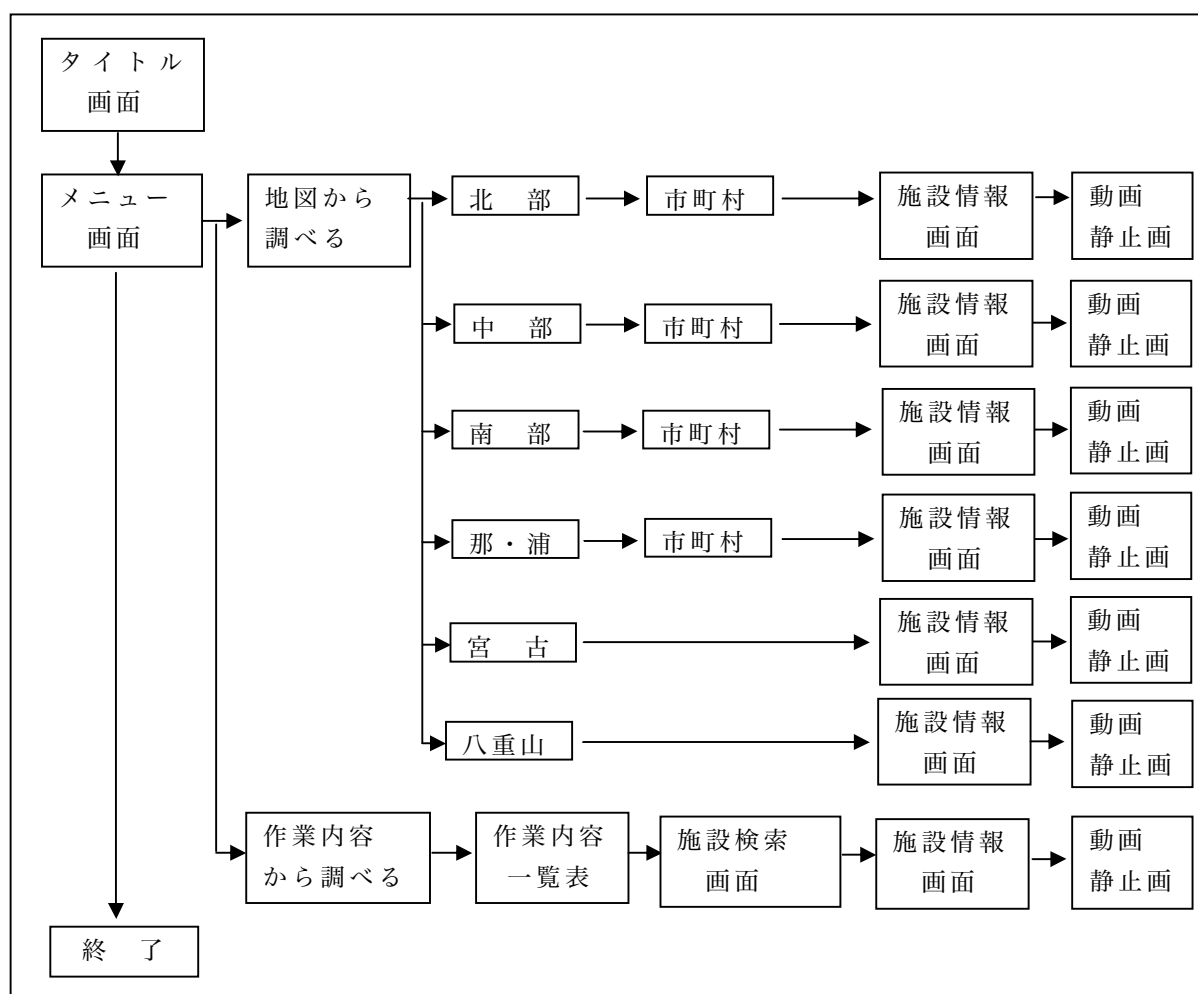


図 18 就労支援ソフトにおける全体構成図

4 画面構成

(1) タイトル画面

画面を立ち上げると、タイトル画面が表示される（図 19）。タイトルの「いっぽいっぽ」には、生徒が自分の夢や進路に向かって一歩いっぽ着実に歩んでいって欲しいという願いが込められている。



図 19 タイトル画面

(2) メニュー選択画面

タイトル画面からメニュー選択画面へ移ると、「地図から調べる」、「作業内容から調べる」のどちらかを選択することができる（図 20）。障害者自立支援法の内容が理解できない生徒でも、簡単に動画や静止画を見ることができるようにした。



図 20 メニュー選択画面

(3) 地域選択画面

「地図から調べる」をクリックすると、最初に調べたい地域を選択することができる（図 21）。次に調べたい市町村を選択することで、各市町村ごとに施設を検索することが可能である。



図 21 地域選択画面

(4) 施設選択画面

各市町村ごとの地図画面からは、就労移行、就労継続支援、多機能型、地域活動支援センター、旧法に基づく施設を選択することができる。これらは全て、日中活動に作業を伴う施設となっている（図 22）。



図 22 糸満市における施設選択画面

(5) 施設情報画面

施設情報画面からは、「福祉施設検索システム」同様、所在地、電話番号、サービス内容、作業内容などの情報を得ることができる。また、「HP」ボタンをクリックすると、施設の運営する Web サイトにアクセスすることができる。さらに、所在地の隣りにある地図のマークをクリックすると、Google Map へとつながり、施設の詳しい場所を知ることができる（図 23）。

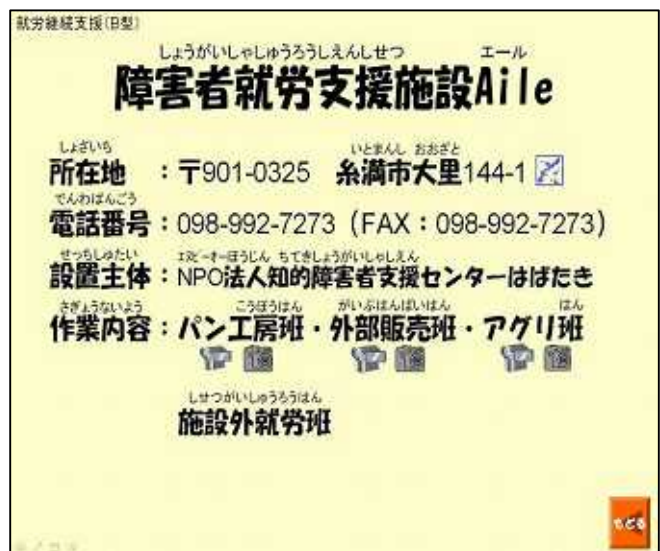


図 23 施設情報画面

(6) 動画画面

「福祉施設検索システム」同様、動画や静止画を見ることが可能である。動画については、画面中央のボタンをクリックすることで、再生となる（図 24）。しかし、プライバシー保護の観点から、主に手元を中心とした撮影を余儀なくされた。生徒や職員の中からは、もっと全体的に作業内容を観たいとの要望もあったが、全体の様子は静止画のみの情報となった。



図 24 動画画面

(7) 作業内容一覧画面

図 24 において、「作業内容から調べる」をクリックすると、「作業内容一覧表」のページへつながる。そこから、作業所等における全ての作業内容を見ることができる（図 25）。

さぎょう ないよう いちらんひょう 作業内容一覧表			
1. 農園業	16. 雑物	31. 衣服製作	46. ウェスたため
2. 袋詰め作業	17. 幼稚園・防虫剤	32. XリVA 出荷準備	47. ト・ハノト
3. 刈作作業	18. 精米	33. 生ゴミ回収	48. 緑画・天地紙
4. 清掃・草刈り	19. 割り箸袋詰め	34. 製袋（袋作り）	49. 調理実習
5. 小物作り・手芸	20. 工業用品作り	35. 雑巾作り	50. H・H・H・H
6. 箱折り作業	21. 販売活動	36. テラリウム作り	51. 算盤
7. パン作り	22. 皮むき作業	37. X・Y 作り	52. 洗車
8. 木工・工芸品作り	23. 養鶏	38. ひも付け作業	53. 染色
9. 陶芸	24. M・Y・G 練習・名刺	39. ビジネス練習	54. 施設外就労・実習
10. X・Y・Z 貼り	25. 洗濯ほしめ作り	40. 袋・新聞たため	
11. お菓子作り	26. 玩具の洗浄	41. 弁当の製造・配達	
12. 食品製造	27. 段ボール組立	42. 郵便物仕分け	
13. 洗剤・石鹸作り	28. 動物の世話等	43. 食品加工	
14. EM ぼかし作り	29. 印刷	44. 堆肥製造	
15. X・Y・Z	30. 食堂・喫茶店運営	45. 縫製・刺繍	

図 25 作業内容一覧画面

(8) 施設選択画面

作業内容をクリックすると、その作業が行われている全ての施設を検索することができる。（図 26）。そこから施設情報画面へとつながり、動画や静止画を見ることができる。

つく しせつ いちらん 7 「パン作り」施設一覧		
<南部地区>	<中部地区>	<宮古・八重山地区>
・就労支援 Aile	・くわの表	・アダナス
・晴風苑	・支援センターたかしほ	
・授産施設とみくすく	・高志学園	
	・コミュニティ石川	
<那覇・浦添地区>	<北部地区>	
・わかたけ	・おとぼ学園	
・アトリエ種子	・本部海陽園	
・授産施設とてつ	・就労支援とりーむ	
	・障害福祉かけはし	
※は特にお勧め		

図 26 施設選択画面

(9) 施設数の多い施設選択画面

「農園業」、「袋詰め作業」、「リサイクル作業」、「清掃・草刈り作業」、「小物作り」に関しては、作業を実施している施設が多いため、2つのページに分けて載せることとした。その際、右上にボタンを設け、次のページへと簡単に移動できるよう工夫した（図 27）。

のうえんぎょう しせつ いちらん 1 「農園業」施設一覧 Part1		Part2
<南部地区>	<那覇・浦添地区>	
・就労支援 Aile	・とみくすく授産施設	・支援センターたかしほ
・社会就労センターたまん	・すずな作業所	・わかたけ
・みなみの里	・愛の園	・授産施設とてつ
・ササキ・トビカリ	・玉川園	・支援センターみくぎ
※晴風苑	・チャイサービスおおさと	・那覇学園
・夢工房	・共に生きる町	・地産センターまーじ
・つさしろ学園		・北部学園
・玉城作業所		・希望の大地
・かすみくらぶ		・ジョブサポートなほ
・のぞみの里		
・おけもとろ学園		
・てだこ学園		
・かすみ草		
・なごみの家		
※は特にお勧め		

図 27 農園業に関する施設選択画面

5 就労支援ソフトいっばいっばの検証

(1) 実態調査

① 調査対象

- ア A 養護学校高等部 2 年生（重複学級 4 名）
- イ B 養護学校高等部 1 年生（重複学級 4 名）
- ウ C 養護学校中学部 3 年生（重複学級 3 名）

② 調査内容

「卒業後就きたい仕事」と「施設等で行われている作業内容」について、自由記述で回答してもらい、福祉施設についての理解度を調査することにした。

③ 調査結果

ア A 養護学校高等部 2 年生

「卒業後就きたい仕事」では、専門学校等への進学・図書館司書・学校の先生・保育士・アナウンサー・女優・ボクサー・消防士などの希望が挙げられた。これらは、自分の身近な人やテレビからの影響が強いと思われる。

「施設等で行われている作業内容」については、清掃・野菜の袋詰め・陶芸・古新聞の回収など、就業体験先において自分が経験したことのある作業内容がほとんどであった。

イ B 養護学校高等部 1 年生

「卒業後就きたい仕事」では、看護師・解体作業の仕事に加え、3 人の生徒が「パソコン関係の仕事」と回答した。これは、パソコン関係の具体的な仕事内容についてはあまり理解していないが、車椅子に座ったままできる仕事であるという認識はあるためだと思われる。

「施設等で行われている作業内容」については、本校高等部の生徒同様、空き缶回収、袋詰めなど、就業体験で経験したことのある作業がほとんどであった。

ウ C 養護学校中学部 3 年生

「卒業後就きたい仕事」では、2 人の生徒が「スポーツ関係の仕事」と回答した。このことから、具体的な仕事内容に関してまでは意識が高まっていないものと思われる。

「施設等で行われている作業内容」については、本校の生徒同様、就業体験で経験した作業内容を挙げていた。

④ 考察

以上のことから、いずれの養護学校においても、雇用先の需要と生徒の希望のミスマッチが見られた。また、施設等においてどのような作業が行われているのかについても、生徒達はさほど詳しくないということが確認できた。

(2) 検証

① 検証の方法

本教材を用いることで、どんな仕事に興味を持つのか、また、自らコンピュータを操作し、作業の内容が理解できたかアンケート調査から探ることとした。

② 検証授業

ア 第 1 回目 平成 20 年 9 月 25 日（木）5 校時

A 養護学校高等部 2 年 2・3 組 4 名

- イ 第 2 回目 平成 20 年 11 月 13 日（木） 5 校時
B 養護学校高等部 1 年 2・3 組 4 名
- ウ 第 3 回目 平成 20 年 11 月 26 日（水） 3 校時
C 養護学校中等部 3 年 2 組 3 名

③ 検証授業指導略案（A 養護学校高等部 2 年生対象）

ア 題材名 「いろいろな仕事をみてみよう」

イ 題材設定の理由

学習指導要領によると、「生活単元学習」は「児童生徒の生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである」と記されている。そのため、本校でも卒業後を見据え、社会生活に必用な基本的知識・技能を育成することを重点に授業を実践している。

今回対象となるクラスは、高等部 2 学年重複学級で、男子 2 名・女子 4 名の計 6 名が在籍する。生活単元の授業は、週 2 時間設けられている。学習面では、文字がスムーズに書ける生徒もいれば、文字を書くにも介助を要する生徒もいるので、コンピュータでの入力装置を工夫し、スムーズな授業展開を心掛けたい。

本題材では、作業所や授産施設等で働く人々の様子を見ることで、障害を持った人でもできることがたくさんあるということを知り、将来への希望を持たせることをねらいとしている。また、働く意味を共に考えることで、働くことの大切さを実感させたい。生徒達は、2 年生ということもあり、働くことについて具体的に考える習慣が身に付いておらず、進路に対する意識も低い。そこで、社会で働く先輩方の姿を手本とし、少しでも自らの進路や働くことに対する興味・関心が持てるような機会としたい。

進路意識・労働意欲を高め、将来の生活に希望を抱かせることが、これから社会にでようとする生徒にとって重要なことだと考え、本題材を設定した。

ウ 題材目標

- (ア) 作業所や授産施設等で働く人々が、いろいろな仕事に携わっていることを知り、障害をもつ人もできることがたくさんあるということを理解し、将来への希望をもたせる。
- (イ) 働くことの意味を考えることで、働くことの大切さを実感するとともに、進路意識の向上を目指す。

エ 本時の目標

- (ア) 自分でマウスを操作して、動画や静止画を見ることができる。
- (イ) 分からないことがあれば、積極的に質問することができる。
- (ウ) 障害をもつ人でも、できることがたくさんあり、社会で活躍していることを実感する。
- (エ) 働くことの大切さを理解し、進路意識を高めることができる。

オ 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	個別の学習活動と課題	備考
導入 10分	1 授業開始の挨拶 2 1学期の就業体験を振り返る。 3 働く意味を考える。	○週番が号令をかけ、元気よく挨拶する。 ○どんな仕事をしたのか発表する。 ○自分なりの意見を発表する。	・生徒の健康状態及び姿勢に注意を払う。 ・一つひとつ提示して確認していく。	・週番は号令をかける。 ・残りの5人は姿勢に注意して座る。 ・どこで、どんな作業をしたのか全員手短かに発表する。 ・自分の意見を積極的に発表する。	・パネル 働く3つの意味)
展開 25分	4 パソコンの使い方を説明する。 5 パソコンで、作業所等での仕事の様子を見る。	○集中して話しかけ聞けるようにする。 ○1学期の就業体験先を見て、作業を思い出す。 ○いろいろな作業があることを知る。 ○やってみたいこと、できそうなことを探す。	分かなければ質問するよう促す。 ・パソコンを自由に操作させ、職員はサポートに専念するようにする。	T1→操作説明 指示 T2→S・A・O・A・K Kのサポート T3→Y・I・A・F・S Eのサポート ・自分の見たい仕事を自由に見る。	・パソコン
まとめ 10分	6 肢体不自由者が働く様子を見て、感じた事を発表する。 7 授業終了の挨拶	○みんなと同じような障害を持った人が社会で頑張っていることを知る。 ○週番の号令で元気よく挨拶する。	・発問後、生徒に答えてもらう。 ・働く3つの意味をここでも触れる。	・自分の意見を積極的に発表する。 ・自分たちと同じように障害を持つ人が、社会で頑張っていることを知り、働くことの大切さを理解する。 ・週番は号令をかける。 ・残りの5人は姿勢に注意して座る。	・パネル 働く3つの意味)

④ 検証結果

ア コンピュータ操作の理解度

「自分でパソコン操作ができましたか」との問いに、全ての生徒が「よくできた」、「だいたいできた」と答えた（図 28）。このことから、本教材は上肢に麻痺のある生徒にとっても容易に操作できるものと思われ、自主的な進路学習への有効性が伺える。

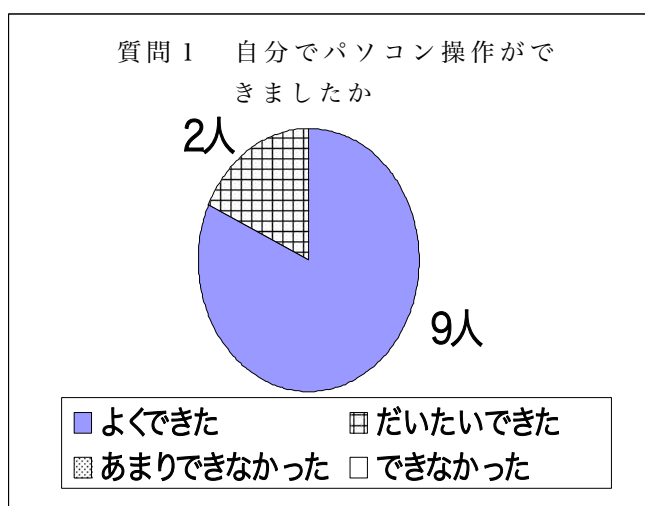


図 28 コンピュータ操作の理解度

イ 作業内容の理解度

「作業の様子が理解できましたか」との問いには、10 人の生徒が「よくできた」、「だいたいできた」と答えた（図 29）。このことから、動画や静止画により実際の働く様子を見ることが、作業内容の理解につながったものと思われる。

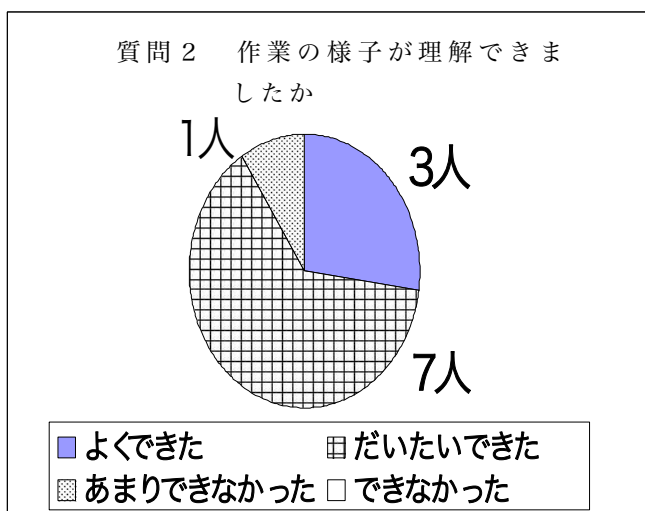


図 29 作業内容の理解度

ウ 進路学習への意欲

「パソコンを使った授業が楽しかったですか」との問いについては、10 人の生徒が「とても楽しかった」、「まあまあ楽しかった」と答えた（図 30）。このことから、パソコンを使った進路学習は、学習意欲への向上につながり、ひいては就労に対する理解にもつながると考える。

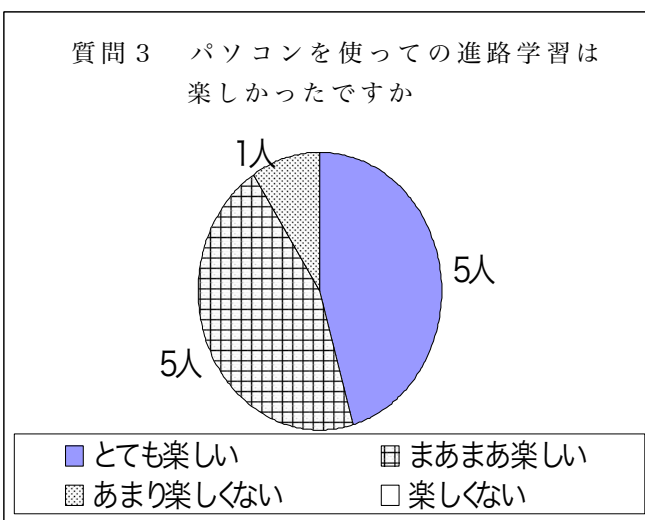


図 30 進路学習への意欲

エ 授業後の生徒の変容

「自分もやってみたいと思った仕事はありましたか」というアンケートから、授業の事前と事後における生徒の変容を見ていくことにする（表2）。

A 養護学校高等部2年生の場合、授業前は消防士，図書司書，アナウンサー，女優などテレビの影響が大きいと思われる職業に興味をもっていたが，授業後は，パン作り，クッキー作り，包装作業，陶芸などの仕事にも興味を示すようになった。

B 養護学校高等部1年生の場合，授業前は「パソコンを使った仕事がしたい」というように，やや漠然とした回答が目立った。しかし授業後は，洗濯ばさみ作り，空き缶つぶし作業，トタン用具の組立作業，パン作り，ホウ酸団子作り，陶芸など，具体的な仕事に興味を持つようになった。

C 養護学校中学部3年生についても，授業前は「スポーツ関係の仕事」，「パソコン関係の仕事」といった漠然とした回答が目立った。しかし授業後は，パン作り，ラベル貼り，袋詰め，箱組立，しおり作りなどの作業にも興味を示すようになった。

これらの結果から，パソコンを使つての進路学習が，生徒の就労に対する興味・関心を広げ，障害の実態に即した進路選択・進路決定に役立つものと考えられる。

表2 授業後の生徒の変容

学校	生徒	授業前	授業後
A養護学校	A	・消防士 ・コーヒー店の店員	・パン作り ・包装作業 ・飛行機用イヤホンの消毒
	B	・図書司書	・クッキー作り
	C	・ボクサー ・アナウンサー	・陶芸
	D	・教師、保育士 ・女優	・パン作り
B養護学校	A	・看護師	・洗濯ばさみ作り
	B	・パソコン関係の仕事	・空き缶つぶし作業
	C	・パソコン関係の仕事	・パン作り ・ホウ酸団子作り ・トタン用具組立 ・袋詰め作業
	D	・パソコン関係の仕事 ・解体作業	・陶芸
C養護学校	A	・スポーツ関係の仕事	・パン作り ・パソコン関係の仕事
	B	・スポーツ関係の仕事 ・清掃	・ラベル（シール）貼り作業 ・袋詰め作業 ・箱組立作業
	C	・パソコン関係の仕事	・パソコン関係の仕事 ・しおり作り

III 成果と課題

1 成果

(1) 福祉施設検索システム

「障害者自立支援法」に基づいた施設の検索が可能となり、より細かな進路指導ができるようになった。さらに動画や静止画を利用して、生徒や保護者にも施設の様子を具体的に紹介することが可能となった。

福祉サービスやリハビリを専門とする施設に関しても、ワムネットとプレゼンテーションソフトを連動させることで検索が可能となり、どのタイプの施設に関しても即座に情報を得られるようになった。

(2) 就労支援ソフトいっぱいぽ

「障害者自立支援法」に関する知識がなくても、地図から施設を選択し、動画や静止画によって作業の様子を簡単に見ることができるようになった。その結果働くことが具体的にイメージできるようになり、就労に対する意欲の向上にもつながった。

また、「作業内容から調べる」という項目から、見たい作業をすぐに見ることができるようになり、作業学習においても活用できるようになった。

2 課題

(1) 動画・静止画の種類

各施設とも、時間帯や季節によって作業内容が異なるため、全ての作業を撮影することはできなかった。新しくできた施設や新たに加わった作業内容の追加は、各学校において行うことになるので、スムーズなカスタマイズの仕方をどのように提供していくかが今後の大きな課題といえる。

(2) 情報の制限

待遇面の情報に関しては、施設によってはあまり答えられない事情もあり、載せないことにした。今後は、これらの細かい情報を、いかにして生徒や保護者に提供できるようにしていくかを考える必要がある。

IV おわりに

働くことについてなかなかイメージできなかった生徒が、ソフトを使うことにより、具体的にイメージできるようになったことが今回の研修の大きな収穫であった。

ICTを使った進路学習支援は、障害をもつ生徒の主体的な進路学習、ひいては進路について自己選択する能力を養うための有効な手だてになったと考えられる。今後も様々な実践を通し、生徒が積極的に社会参加できるようキャリア教育に取り組んでいきたい。

<主要参考文献・URL>

沖縄県立総合教育センター 2008 『沖縄県キャリア教育推進事例研究』

厚生労働省/社会福祉協議会 2008 『障害者自立支援法のサービス利用について』

國沢賢治 2006 『私たちの進路＜あしたへステップ＞』 株式会社ニチブン

独立行政法人福祉医療機構ワムネット <http://www.wam.go.jp/>